

東日本大震災では、多くの人が公民館や学校などの避難所で助け合っ^{ひがしにほんだいしんさい}て生活しました。
^{ひなんじょ}

みんなと^{おお}いっしょに生活する^{ひと}ためには、どのような^{こうみんかん}ことが大切^{がっこう}でしょうか。



写真提供：河北新報社

写真提供：三陸新報社

みんな^{たいせつ}で生活する^{たいせつ}ための大切なことを決めたんだ。

避難所で^{しょくじ}食事を^{しょくじ}もらうために^{しょくじ}ならぶ人^{しょくじ}たち

子どもたちが決めたやくそく



しずかにしよう



すれちがう人に
あいさつをしよう



つけたものは
かたづけよう



おとしよりの^{かた}方に
やさしくしよう



どそく
土足でへやには
はい
入らないようにしよう



くつを
そろえよう



避難所では、やくそくや
きまりを^{まも}守り、おたがいに
ゆずり合い、助け合っ^{まも}て
生活しました。

ぼくと お父さんの

ボランティアかつどう

3月11日、東日本で大きな地しんが おきました。

ぼくは、その時学校の教室にいました。

ガタガタとたくさんゆれたので、つくえの下に

もぐりました。すごくこわかったです。

地しんが おきてから、ぼくは お父さんたちの
ボランティアを手つだいました。

一回目と二回目は、中新田の子どもまつりと、
小の田でぼ金かつどうをしました。しんさいにあった
人たちに元気に なって もらいたくて、大きな声で

がんばりました。たくさんの人たちがぼ金をして
くれてうれしかったです。ぼ金をしてくれた

人たちは、とてもやさしい人だと思いました。

そのお金でひさい地の人たちがたすかってほしいと
思いました。

三回目は、お父さんの友だちと一緒に、

石のまきのみなと小学校に行きました。

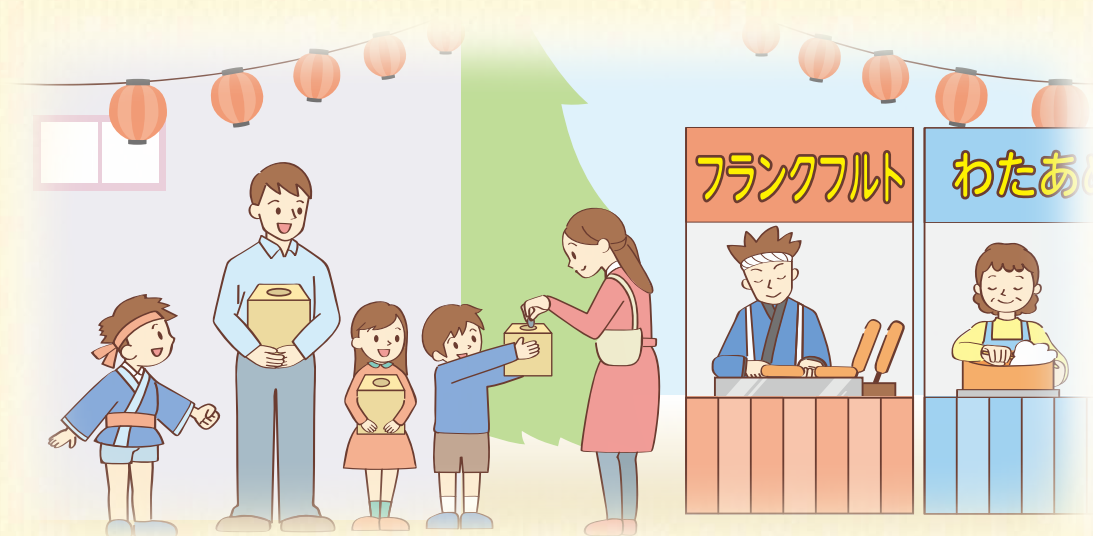
みなと小学校には、ぼ金かつどうであつまったお金で、
小の田でとれたやさいやつけもの、アイスクリームや
なっとうをもって行きました。

みんなすごくよろこんでくれました。

おいしいやさいをたくさん食べてがんばって
ほしいと思いました。またみなと小学校に行った
ときは、なかよくなった友だちと一緒に
あそんで元気にしてあげたいです。

そして、これからもボランティアかつどうを
お父さんと一緒につづけて行って、みんなを
え顔にしたいです。

(作文宮城 60号 特別編『あの日の子どもたち』より)



学校内の命を守るものをさがそう

学校内の命を守るものにはどのようなものがあるのでしょうか。

どんなときに、
どんなふうにつかうのかな？



おくがい ひなん かいだん
屋外避難階段



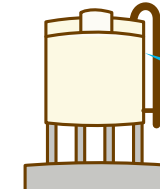
そうらあばねる
ソーラーパネル



ゆう どうひょうしき
誘導標識



か さい ほう ち き
火災報知器
しょう か せん
消火栓



こう か ずい そう
高架水槽



備 番 倉 庫
び ちく そう こ
備蓄倉庫



ひ じょうかい だん
非常階段



しょう か き
消火器



が ず も
ガス漏れ
けん ち き
検知器



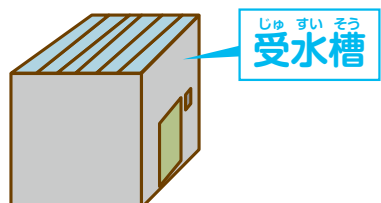
ねつ かん ち き
熱感知器



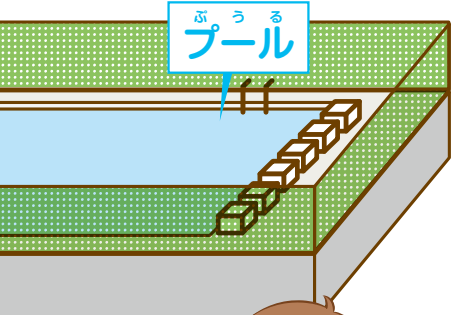
しょう ぼう たい しん にゅう こう
消防隊進入口



ええいいてえ
AED



じゆ ずい そう
受水槽



ぶう
プール



ぼう か とひら
防火扉



ひ じょう ほう そう せつ び
非常放送設備



きゅう じょ ぶくろ
救急袋



たい しん ぼきょう
耐震補強

もしもの ときの ために、どこに
どんな せつびが あるか おぼえて おこう。



わたしたちを ^{まも}る ^ち地いきの ^{ひと}びと 人々

地いきでは どのような 人たちが わたしたちの ^{あんぜん}安全を 守って くれて いるのでしょうか。



なにか あったら 地いきの 人に たす 助けて もらおう。

あさ ^{がっこう}朝 学校に ^く来る ときや、^{かえ}帰りに ^{よく}よく 見かけるね。



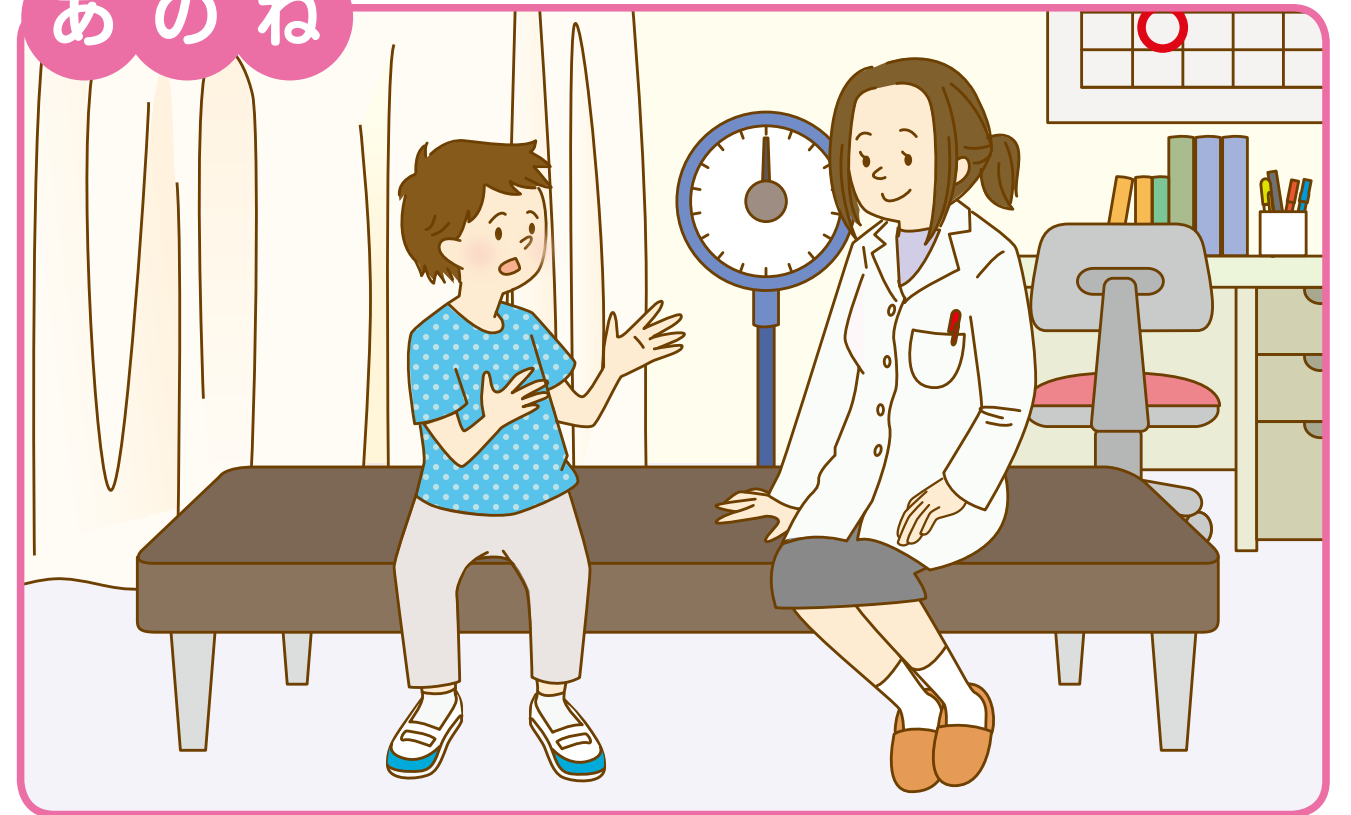
1 かなしいとき こわいとき

かなしいことやこわいことがあるとおなか
いたくなったり、いらいらしたりすることがあります。
そのようなときはどのようにすればよいのでしょうか。



がまんしないで ^{せんせい}先生や ^{いえ}家の ^{ひと}人に ^{はな}話して みよう。

あのね



あそんだり ^{からだ}体を うごかしたり すると
き 気もちが すっきり するよ。



かせつじゅうたくを^{つく}作る しごと

あさ 朝の 5 時に おこされ、じじの とら^{とら}ックに のって
ふたり 二人で、いし 石のまきに むか^{むか}って 出^{しゅつ}ぱつしました。

トラックには、かせつじゅうたくの やねと やねを
とめる な^なつとをつんで 行^いきます。

まつしま 松島だい五小学校の 校^{がう}ていの 4 ばい ぐらい でっかい
やま 山の 上^{うへ}の あき^{あき}地に、新^{あたら}しい じゅうたくを 作^{つく}って
いました。じじが ろう^{ろう}ぶを はずして クレー^{くれえん}ンの
ワイヤー^{わいやあ}を にもつに かけて おろ^{おろ}します。

すごく あつ^{あつ}い 中^{なか}、エア^{えあ}コンを 止^とめるので
ま^{ぜん}どを 全^{ぜん}かいに して やり^{やり}ます。それでも あつ^{あつ}くて
あつ^{あつ}くて、あせ^{あせ}だ^だく^くに な^なって は^はたら^{たら}いて います。
みんな いそ^{いそ}いで います。つな^{つな}みて 家^{いえ}を な^なが^がされ^{れた}た
ひと^{ひと}たちの た^ために、みんな 一^{いっ}生^{しょう}けん^{けん}めい は^はたら^{たら}いて
いました。あつ^{あつ}い 中^{なか}、人^{ひと}の た^ために は^はたら^{たら}く^くって、
す^すご^ごいなあ^あと 思^{おも}いました。

じじや そう^{そう}いう し^しごと^{ごと}を して いる 人^{ひと}たちは、
ほん^{ほん}とう^{とう}に す^すご^ごいで^す。

じじや あの あ^あつ^つい 中^{なか}、こ^こま^まつ^つて いる 人^{ひと}たちの
た^ために は^はたら^{たら}いて いる 人^{ひと}を ^み見^みて、そう^{そう}いう 人^{ひと}の
た^ために なる し^しごと^{ごと}を し^したい^{たい}と 思^{おも}い^います。

(作文宮城 60 号 特別編「あの日の子どもたち」より)



未来に 向かって

さあ いこう!



写真提供：女川町



協力：アトリエ太陽の子

まえ 前を 向いて

ちから 力を あ 合わせて



あたりまえ

テレビで あはは

ゲームに む中

おかしを むしゃむしゃ

ともだちと あそんで

トイレに いったら お水を

ながして 手を ぐしぐし

くらく なったら でん気ピカ

パパと おふろで じゃばじゃば

あらった パジャマ いい におい

おふとんに おやすみ

あしたも 学校で

みんなと あそぼうって ねむる

あたりまえを

つなみが ぜんぶ

ながして いった

でも あたりまえが やつと

かえって きた

いまは あたりまえが

うれしい

あたりまえが 大すき

あしたも

あたりまえが

いいなあ

(作文宮城60号 特別編「あの子どもたち」より)

